

平成 26 年 4 月 2 日

# 南の風 60

南部ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

まずは

## 男子六ツ川チームの選手の皆さん、また関係者の皆様

### 全国優勝おめでとうございます！！！！

素晴らしい快挙です！！！！ 南部連盟を代表してお祝い申し上げます。

六ツ川チームの選手、スタッフ、保護者会、関係者の皆様の力の結集であると思います。

本当におめでとうございます！！！！

簡単に検証してみます。予選リーグは、大阪代表と愛知代表と戦いました。大阪のチームとはやや苦戦したようですが、最後はしっかりと勝ち、決勝リーグに進みました。

決勝リーグの1回戦（準決勝）は広島代表とのゲームでした。このゲームは私も観戦しました。立ち上がりから、六ツ川は落ち着いているように見えました。ペリメーターのシュートも自然体で打っていましたし、オフェンスリバウンドにも跳び込んでいました。シュートの確率も悪くなく、流れは六ツ川でした。1Qの最初に、相手の4番（エースガード）にフェイスガードで付き、プレイを制限したことも作戦としてヒットでした。4番は思うようにプレイができず、後々までストレスになりました。相手の攻めは4番から崩しが多かったです。また、六ツ川のペイントエリアを守るディフェンスに、中にボールが入らず苦勞する場面が多々ありました。いい状態で打てるシュートが少なく、ペースは六ツ川でした。後半も流れは変わらず、危なげなく決勝に進みました。

このゲームからも、シュートの決定率と、オフェンスリバウンド跳び込むことの積極性の大切さがわかります。また、5人で守るディフェンスの重要性（役割果たすことと、連動すること）も改めて感じました。

決勝は石川代表とのゲームでした。《戦評風に書きます。》

1Qは接戦となった。このゲームも、六ツ川は自分たちのタイミングでシュートが打つことができた。4番、5番が落ち着いて決めた。石川は5番を中心にチャンスをつくり、7番の外角シュートで対抗してきた。2Qは、石川のゾーンに対して六ツ川は、10番がゴール下を攻め確実に点数を入れた。前半を終わって、15対14で六ツ川リード。3Qに入り、両チームゾーンプレスの掛けあいとなった。六ツ川はしっかりボールを運び、8番、10番のゴール下シュートにつなげた。石川は5番、6番の外角シュートが決まりだした。34対21、六ツ川リードで最終Qへ。4Qは石川がゾーンプレスでボールを奪いに行く。5番のドリブルから7番、16番がシュートを決め、7点差まで詰め寄る。六ツ川は、4番が落ち着いてペリメーターのシュートを決め、流れを渡さなかった。石川が最後は5点差まで詰めたが、六ツ川が44対39で逃げ切った。

六ツ川の安定感のあるシュート力が光ったゲームでした。全国優勝おめでとうございます！！！！